



様々な人との触れ合いを通して

園長 米澤 千秋

この度、能登地方の豪雨により被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く落ち着いた生活を取り戻せますようお祈りいたします。

さて、9月は様々な人と触れ合う機会に恵まれました。

青柳小学校の児童の皆さんが、工夫を凝らした遊びを準備・運営する行事『青柳まつり』にご招待いただきました。コロナ禍はクイズラリーなど形を変えて行っていましたが、今年度は久しぶりに児童・園児が直接関わり、心を通わせた交流となりました。

年長組は4年生と“ペアフレンド”になり、一緒に回りました。顔合わせの時、少し緊張気味の子もたちを4年生が優しくリードしてくれます。「ここは狭いから、もう少し広がりうね」と、優しく手を引いてくれたり、屈んで目線を合わせて「どこから行きたい？」と聞いてくれたり。ドキドキして答えられない子には、少し待ってから「魚釣りに行く？」「ボーリングは？」と提案してくれました。相手に寄り添う気持ち、「青柳まつりを楽しんでもらいたい」という気持ちが行動として随所に現れていて、感心しました。優しく関わってもらうことで、子どもたちの緊張も徐々にほぐれ、楽しく過ごすことができました。

年少もも組は、みんなで1年生のクラスを回りました。大きな声で遊びに誘ってくれたり、一生懸命に遊びのルールを説明してくれたりする1年生。ボーリングコーナーは“一人3回投げられる”というルールでしたが、なかなかピンに当てられず残念そうな幼児の表情に気付き、「もう1回いいよ」と何度もおまけをしてくれました。やっとピンを倒せて大喜びの子どもたち。園に戻る時には、「楽しかった！」「もっと遊びたいな」という声がたくさん聞かれました。



その後、青柳まつりで楽しんだ射的やボーリングなどを再現して遊んでいます。小学生との心地よく、楽しい関わりが、遊びの充実につながりました。

そして、在園児の祖父母の皆様をお迎えしたふれあい会でも、心温まる触れ合いがたくさん見受けられました。ドキドキしながら大勢のお客様の前で司会をする年長児に祖父母の方々が「頑張れ！」と声を掛けてくださり、子どもたちの歌を微笑みながら聞いてくださいました。遊びタイムでは、一人一人のペースに応じて優しく関わってくださり、楽しいひと時となりました。祖父母の方からは、「可愛い園児さんたちと遊ぶことができ、元気をもらいました。楽しかったです」「自分の孫より一つ上のお子さんと遊び、1年の差を感じました。孫の成長が、また楽しみになりました」「昨年も参加しましたが、この1年の成長が感じられて嬉しかったです」などの感想をいただきました。終始「かわいいね」「すごいね」などと温かい言葉を掛けながら寄り添ってくださり、子どもたちは大満足の一日となりました。姿が見えなくなるまで手を振り、見送る子どもたちの姿が印象的でした。

このように幼児は様々な人との触れ合いを通して、体験の幅を広げたり、自分が大切にされているということを感じたりし、自己肯定感や豊かな感情が育まれていきます。

運動会後に年長組は、近隣の犬塚保育園との交流も予定しています。今後も、地域の方々、保護者の皆様、異年齢児など、互惠性のある触れ合い活動の充実を図ってまいります。